

著作権

© 2009 SAP AG. All rights reserved. SAP, R/3, SAP NetWeaver, Duet, PartnerEdge, ByDesign, SAP Business ByDesign, および本書に記載されたその他のSAP製品、サービス、ならびにそれぞれのロゴは、ドイツおよびその他の国々におけるSAP AGの商標または登録商標です。Business ObjectsおよびBusiness Objectsロゴ、BusinessObjects、Crystal Reports、Crystal Decisions、Web Intelligence、Xcelsius、および本書で引用されているその他のBusiness Objects製品、サービス、ならびにそれぞれのロゴは、米国およびその他の国々におけるBusiness Objects S.A.の商標または登録商標です。Business ObjectsはSAPのグループ企業です。本書に記載されたその他すべての製品およびサービス名は、それぞれの企業の商標です。本書に記載されたデータは情報提供のみを目的として提供されています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。これらの文書の内容は、予告なしに変更されることがあります。また、これらの文書はSAP AGおよびその関連会社（「SAPグループ」）が情報提供のためにのみ提供するもので、いかなる種類の表明および保証を伴うものではなく、SAPグループは文書に関する誤記・脱落等の過失に対する責任を負うものではありません。SAPグループの製品およびサービスに対する唯一の保証は、当該製品およびサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。

2009-11-24

リリース ノートについて

これらのリリース ノートには、このリリースの SAP BusinessObjects Xcelsius 2008 Service Pack 3 に関する情報のみが含まれています。

Business Objects のソフトウェアをインストールする前に、このドキュメント全体を熟読してください。ソフトウェアのリリース後、最新情報はオンライン 『SAP BusinessObjects リリース ノート』(<http://help.sap.com/content/bobj/overview/index.htm>) に追加されます。

注

最新の情報を確認するには、オンライン リリース ノートを参照してください。

リリース番号について

Xcelsius 2008 は、この製品の最初のリリースで、非公式に Xcelsius 2008 RTM と呼ばれることもあります。

Xcelsius 2008 SP1 は、最初のサービス パック(SP)リリースで、アップデート、修正、機能強化および追加機能が含まれています。サービス パックは、主要なリリースとみなされ、すべての関連ドキュメンテーションが更新されます。

Xcelsius 2008 Fix Pack 1.1 は、SP1 のための最初のフィックス パックで、パッチやバグ修正が含まれていますが、機能強化や追加機能は含まれていません。フィックス パックは、主要なリリースとはみなされず、ドキュメンテーションの更新は、『リリース ノート』や『Fixed Issues』に限られます。

フィックス パックの番号は、以下のように構成されています:[サービス パック番号].[フィックス パック番号]。たとえば、4 番目のサービス パックの 3 番目のフィックス パックの場合は、Fix Pack 4.3 になります。今後のサービス パックおよびフィックス パックは、上記の番号システムに従います。フィックス パックは、関連するサービス パックのみに適用してください。

注

インストールした Xcelsius 2008 がどのリリースかは、[ヘルプ]メニューから確認できます。[ヘルプ] > [Xcelsius について]をクリックしてください。ダイアログ ボックスに Xcelsius のバージョン番号とビルド番号が表示されます。以前のリリースは、以下の番号に対応します。

Xcelsius リリース	Xcelsius バージョン	ビルド番号
Xcelsius 2008 (RTM)	5.0.0.99	12,1,0,121
Xcelsius 2008 SP1	5.0.0.99	12,1,0,247
Xcelsius 2008 FixPack 1.1	5.1.1.0	12,1,1,344
Xcelsius 2008 SP2	5.2.0.0	12,2,0,608
Xcelsius 2008 FixPack 2.1	5.2.1.0	12,2,1,66
Xcelsius 2008 SP3	5.3.0.0	

Fix Pack 1.1以降、Xcelsius バージョン番号は、上記のフィックス パック番号構造に対応します。バージョン番号は次のように構成されます: [製品バージョン].[サービス パック番号].[フィックス パック番号].0。

インストール

インストール要件

Xcelsius 2008 には、レジストリやインストール ディレクトリにファイルを書き込む機能が必要です。Xcelsius 2008 がファイルのアクセスと書き込みをできない場合、インストールに失敗します。Xcelsius 2008 は、指定されたオペレーティング システムで以下の権限が必要です。

オペレーティング システム	要件
Windows XP	現在のユーザーは管理者であるか、管理者レベルの権限を持っている必要があります。
Windows Vista	- 現在のユーザーは管理者であるか、管理者レベルの権限を持っている必要があります。 - ユーザー アカウント制御を無効にする必要があります。

システム要件とサポートされているプラットフォームの全リストについては、<https://www.sdn.sap.com/irj/boc/articles> にある『SAP BusinessObjects Xcelsius 2008 サポートされているプラットフォーム』ドキュメントを参照してください。インストール手順については、<http://help.sap.com>のSAP ヘルプ ポータルにある『SAP BusinessObjects Xcelsius 2008 インストール ガイド』を参照してください。

Fix Pack 1.1 適用 Xcelsius 2008 のアンインストール時のエラー

Fix Pack 1.1 が適用されている場合、Service Pack 3 をインストールするために、SAP BusinessObjects Xcelsius 2008 をアンインストールしようとすると、エラーが発生します。

回避策: Xcelsius 2008 をアンインストールする前に、Fix Pack 1.1 をアンインストールします。

xcelsius.msi ファイルの不足

SAP BusinessObjects Xcelsius 2008 SP2 または SP1 をインストールしている場合、SAP BusinessObjects Xcelsius 2008 SP3 をインストールする前に、以前のバージョンをアンインストールする必要があります。SP1 または SP2 インストールのソース ファイルを削除した場合、Service Pack 3 をアンインストールしようとすると、以下のエラーが発生します。

Service Pack 3 用の xcelsius.msi ファイルの場所が適正ではない。

このエラーは Microsoft の既知の問題で、エラー 1706 「必要なファイルが見つかりません」です。リムーバブル メディアから MSI ファイルをインストールする際に発生します。

回避策としては、可能であれば、以前のインストール バージョンから xcelsius.msi ファイルをコピーし、以前のプログラム ソース ファイルが保存されていた場所に保存してから、Xcelsius をアンインストールします。

以前インストールしたバージョンのソース ファイルにアクセスできない場合は、<http://support.microsoft.com/kb/299803> の Microsoft のサポート サイトでこの問題を解決する手順に従ってください。

Xcelsius 2008 の起動 – エラー メッセージ

Microsoft Windows テンポラリ フォルダ %temp% (たとえば、管理者用の C:\Documents and Settings\Administrator\Local Settings\Temp) が存在しない場合、SAP BusinessObjects Xcelsius 2008 を起動すると以下のエラーが発生します。
Microsoft Visual C++ Runtime Library RuntimeError! ...

回避策としては、Xcelsius を起動する前にデフォルトの場所に Windows のテンポラリ フォルダが存在することを確認します。

ユーザー アカウント コントロールとアドオンの管理

ユーザー アカウント コントロール(UAC)が有効な場合、[アドオンの管理]メニュー項目は Xcelsius で使用できません。

回避策として、アドオンを管理する場合は UAC をオフにします。

Xcelsius 2008 へアップグレード後のフォント サイズ

[Xcelsius 4.5]から[SAP BusinessObjects Xcelsius 2008]へのアップグレード後、SWF ファイルではフォントが小さく見えますが、[プロパティ]パネルでは、フォント サイズは以前のバージョンと同じです。

回避策として、Xcelsius 4.5 で作成し、Xcelsius 2008 にアップグレードしたモデルのフォント サイズを調整して、サイズの違いに適合させます。

エクスポートの問題

ファイル名が長い場合の HTML へのエクスポート

モデルが HTML にエクスポートされ、ファイル名 (UNICODE ファイル名) のワイド文字数が 59 を超えていると、エクスポートされた HTML ファイルは SWF ファイルをロードできません。エクスポートされた HTML ファイルでは、SWF ファイル名の 59 ワイド文字数を超えた分は切り捨てられます。

回避策としては、ファイル名を 59 ワイド文字数以下にするか、`<EMBED src="">` に実際のファイル名が含まれるように HTML ファイルを手動で変更します。

注

<http://bugs.adobe.com/jira/browse/FP-1090>

コンポーネント

スライド ショーのトランジション タイプ

スライド ショーのトランジションは、デザイン モードの場合や実行時には意図したとおりに動作しません。

デザイン モードの場合、以下のトランジション タイプは正しく動作します。

- ・ スライドイン (左へ)
- ・ スライドイン (右へ)
- ・ プッシュ (左へ)
- ・ プッシュ (右へ)

- ・ ズーム

実行時には、[スムーズフェード]トランジションタイプのみが意図どおりに動作します。
以下のトランジション タイプは意図どおりには動作しません。

選択したトランジション	実行時のトランジションの動作
プッシュ(左へ)	プッシュ(右へ)
プッシュ(右へ)	プッシュ(左へ)
スライドアウト(左上へ)	プッシュ(上へ)

- ・
- ・

1 チャート コンポーネントを選択して[プロパティ]パネルを開きます。

- 2
- ・
 - ・

接続

BusinessObjects Xcelsius Enterprise 2008

Live Office

Live Office 対応スプレッドシートによるパフォーマンスの低下

モデルにLive Office 対応スプレッドシートが含まれている場合、SWF ファイルの生成時のパフォーマンスがおよそ 10% 低下します。パフォーマンスは、Live Office 接続を切断しても低下します。

ローカル子コンテンツのある、BusinessObjects Enterprise InfoView にホストされている親 SWF の表示

問題:ローカル PC に格納されているローカル コンテンツ(子 SWF や画像など)のある SWF (親)を、BusinessObjects Enterprise へエクスポートしています。親 SWF は InfoView で表示できますが、子コンテンツをロードできません。

回避策:この問題の回避策はありません。これは Adobe のセキュリティ制限です。Adobe Flash Player 9 では、URL (たとえば、BusinessObjects Enterprise InfoView や Web サイト)にホストされている SWF は、ローカル ファイル システムに格納されているファイルをロードできません。BusinessObjects Enterprise InfoView にホストされている親 SWF には、BusinessObjects Enterprise InfoView にもホストされている子コンテンツが必要です。

『 http://www.adobe.com/devnet/flashplayer/articles/fplayer9_security.html 』

[ポータル データ接続]チェックボックスの動作

[ポータル データ接続]が、IBM WebSphere 接続モデルに追加され、[接続タイプ]が[なし]で[パラメータタイプ]が[チェックボックス]に設定されている場合、ユーザー

が IBM Websphere ポータルでチェックボックスを選択すると、挿入値は -1 になります。チェックボックスを選択しない場合、挿入値はヌルです。

Microsoft Excel

Microsoft Excel 機能

配列式 (Ctrl + Shift + Enter を使用して入力)

問題: Xcelsius 2008 では、Microsoft Excel の配列式はサポートされません。

条件: 式が、Ctrl + Shift + Enter を使用して入力され、中かっこ {} で囲まれた配列式である。たとえば、={SUM(B2:D2*B3:D3)} など。

動作: 間違った計算が Xcelsius 2008 によって返されます。

DATEVALUE(date_text)

問題: Xcelsius 2008 では、Microsoft Excel の内部テキストベース日付形式がサポートされません。

条件: Date_text が数値以外の形式で入力された。たとえば、January 1, 2008 など。

動作: Xcelsius 2008 は #VALUE! を返します。Excel は、内部日付値を返します。

INDEX(array, row_num, column_num)

問題: Xcelsius 2008 では、INDEX がセル参照ではなく値として計算されます。したがって、セル参照を使用する他の関数と組み合わせることはできません。

条件: セル参照を必要とする、INDEX と結合された他の関数。たとえば、SUM(A1:INDEX(...)) など。

動作: Xcelsius 2008 では、値が計算され、セル参照を使用する他の関数についてはエラーが作成されます。

IRR(values, guess)

問題: Xcelsius 2008 は、guess 値が負の場合に間違った計算を返します。

条件: Guess 値が負である。

動作: Xcelsius 2008 では空白が返されます。Excel では有効な IRR 値が返されます。

SUMIF(range, criteria, sum_range)

問題:Xcelsius 2008 では、range セル選択が sum_range セル選択よりも大きい場合に、拡張された sum_range が計算されません。

条件:Rangeセル選択が sum_range セル選択よりも大きい。

動作:Xcelsius 2008 では、sum_range で選択されたセルのみ計算されます。Excel では、range のより大きなセル選択に基づいて、拡張された sum_range が計算されます。

SUMPRODUCT((Condition1)*(集計する範囲))

問題:Xcelsius 2008 では、SUMPRODUCT ((Condition1)*(集計する範囲)) がサポートされていません。

条件:((Condition1)*(集計する範囲)) はサポートされていません。

動作:関数は、実行されると #VALUE を返します。Xcelsius 2008 では、SUMPRODUCT(Range1,Range2, ...) の使用のみがサポートされています。

SUMXMY2 関数、SUMX2MY2 関数、SUMX2PY2 関数

問題:実行時に SUMXMY2 関数、SUMX2MY2 関数、あるいはSUMX2PY2 関数のエラーメッセージが #Value! などに設定されていると、Xcelsius 2008 は #Value! ではなく NaN を返します。

TEXT(value, format_text)

問題:Xcelsius 2008 は、Excel の内部ナンバリング スキームから年への書式設定をサポートしません。

条件:値が Excel の最小と最大の年(数値形式)の間にある。format_text 値が e である。

動作:式 =TEXT(1,e) Xcelsius 2008 は e を返します。Excel は値 1900 を返します。

VLOOKUP(lookup_value, table_array, col_index_num, range_lookup) および
HLOOKUP(lookup_value, table_array, row_index_num, range_lookup)

問題:Microsoft Excel と Xcelsius 2008 は、table_array 内の重複する lookup_value に対して異なる計算結果を生成します。Microsoft は、これらの関数で既知の問題を報告しています。

条件:

- Range_lookup 値が省略されるか、TRUE に設定されている。
- table_array 内の Lookup_value が重複している(2 回以上)。
- table_array の最初の列の値が昇順に並べ替えられている。

動作: Xcelsius 2008 は、table_array に見つかった最初の行/列の値を返します。Excel は、table_array 内の最後の行/列の値を返します。

オプション パラメータを持つ関数

オプション パラメータ、つまり値を省略できるパラメータを持つ Excel 関数を使用する場合は、これらのパラメータに値を指定することをお勧めします。オプション パラメータの値を省略すると、ビジュアルイゼーションが表示されない場合があります。